

## 1 施設の概況

平成 28 年度、約 1 年かけて施設設置者たる特別区人事・厚生事務組合（以下「特人厚」という。）による建物老朽化に伴う外壁塗装・屋上防水工事が実施された。工事に伴い生活環境が不便になるため利用率の低下も予想されたが、宿直体制がある更生施設の併設であり交通の便も良いことから、年間を通して利用率の高さは維持できた。

利用世帯の特徴は、女性単身が 8 割近くを占め、次いで母子世帯、夫婦世帯と続く。世帯属性では、高齢者、ひとり親、外国人が多くなっている。課題解決に時間がかかる場合、特人厚や福祉事務所と協議の上、安定した生活への移行を目的とした利用期間延長に柔軟に対応している。

職員育成の一環としては、施設独自の職員学習会を企画・実施。関係機関や他施設職員の参加を得て、支援者のスキルアップとネットワークづくりにも貢献している。

『地域と共に歩む施設』として、併設の更生施設（以下「併設更生施設」という。）とともに、地元の淀橋市場協会のお祭りや町会の一員として合同防災訓練へ参加し、地域住民からの信頼を得られるよう努めている。

## 2 主要目標と取組

## (1) 安全・安心の施設運営

安否確認カードを活用し、日々の安全確認を行う。併設更生施設の協力による緊急対応、ナンバーロック錠や防犯ビデオを活用し安全確保を図る。各世帯の生活状況に配慮した声掛けを行い、利用者が「見守り」を感じることでできる環境を提供する。

## (2) 特人厚バックアップセンター等との連携を密にした緊急一時保護機能の充実

入所受付時からバックアップセンターや関係機関と連携し、想定される課題や支援策を協議した上で、入所後は速やかに支援を行う。

## (3) 利用者支援内容の充実

- ① 支援確認書、各種専門相談等の活用により、世帯の特性を多面的にアセスメントし、退所後の生活も視野に入れた支援を行う。
- ② 併設更生施設の看護師、栄養士、職業相談員の協力を得るなど、施設の特性を活かした支援を付加していく。

## (4) 年間入所目標（対定員利用率）

定員	29 年度目標	28 年度目標	28 年度実績(見込)
27 世帯 54 人	90 世帯 (333.3%)	80 世帯 (296%)	80 世帯 (296.3%)

## 3 管理運営

## (1) 日常の援助

- ① 入所時に利用者・実施機関担当者・施設職員で「支援確認書」を作成。施設の利用目的を明確化し、支援課題と解決に向けた方策やキーパーソンを三者で共有する。
- ② 安否確認カードの提出や各種行事への参加を通して、日課づくりを支援する。
- ③ 各世帯の特性・利用目的・支援課題を職員間で共有し、切れ間のない支援を行う
- ④ 各種グループワーク・専門相談等を活用し、的確なアセスメントを行うとともに、利用者のエンパワーメントを図る支援を行う。
- ⑤ 居室清掃を利用者と共に行うなどし、清潔保持・ゴミ捨てるの習慣化を図る。

## (2) 自立促進・転出促進

- ① テーマ別グループワークにより、各種制度（生活保護制度やその他手続等）・求職活動・アパート探し・転宅準備等について知識の涵養を図る。

- ② 職業相談員・ジョブステーション等との連携により、就労活動を支援する。
- ③ 都営住宅一般／特割申込み・区営住宅申込みの支援を行う。
- ④ バックアップセンター住宅相談・緊急連絡先確保事業を活用し、転宅を支援する。

(3) 諸行事

グループワーク（年6回）、手芸会（月1～2回）、調理実習（年2回）  
メンタル相談（年12回）、育児相談（年13回）、  
利用者懇談会・防災訓練（年4回）、  
季節行事（七夕会・クリスマス会・ひなまつり）、  
地域関連行事〔更生合同〕（市場祭り・地域防災訓練・餅つき会）、  
ほか、バックアップセンター専門相談

(4) 消防・防災等

併設更生施設と合同の年4回の自衛消防訓練（年1回の地域防災訓練を含む）を実施する。避難時要介助者を把握し、重点的に避難誘導する。地元町会と災害時応援協定を締結しており、災害時食料の確保など協力体制を継続する。

(5) 職員会議等

宿提会議・ケース検討（月1回）、職員会議（月1回）、職員学習会（年2～3回）

(6) その他

施設清掃の一部を、併設更生施設利用者の就労訓練の機会として提供する。

#### 4 保健衛生・環境整備

(1) 保健衛生

- ① 健康管理を意識づけるため体温計、血圧計、体重計を貸し出し、定期的な計測を推進する。
- ② 併設更生施設の看護師や嘱託医と連携し、感染症予防の働きかけを行う。
- ③ 掲示を活用し地域の健康診断や健康教室の情報提供を行う。

(2) 環境整備

- ① 併設更生施設と合同で清掃業務を委託し、退所後の居室整備を迅速に行う。
- ② 淀橋荘外構の植栽を整備し、利用者だけでなく近隣にとっても潤いのある施設環境を創り出す。
- ③ 防虫調査（年4回）、消防設備点検（年2回）、  
受水槽検査（年1回）、雑排水管清掃（年1回）

#### 5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ① 近隣の淀橋市場協会が主催する「淀橋市場祭り」へ地域交流事業の一環として参加する。（施設機能強化）
- ② 地元町会との防災協定により防災訓練に参加するとともに、併設更生施設と協力し災害時の協力体制を強化する。（施設機能強化）
- ③ 地域包括支援センター・介護事業所・子ども家庭支援センター・学校関係・婦人保護施設・児童相談所・宅配弁当・社会福祉協議会・ボランティアセンター等との連携を強化する。
- ④ 施設独自の職員学習会を企画実施し地域関係機関や関係施設とのネットワークづくりに貢献する。（施設機能強化）
- ⑤ 新宿区内の更生保護施設連絡協議会、更宿連全国研修（施設機能強化）、東社協更生福祉部会に参加し関係施設間の連携を図る。
- ⑥ 併設更生施設と共に実習生や民生委員等、各種地域団体からの見学を積極的に受け入れる。
- ⑦ 特人厚と協力し、淀橋荘を利用する福祉事務所等関係機関向けの見学会を実施する。淀橋荘の利用方法や支援内容を紹介するとともに、関係機関からの意見・要望を吸い上げる機会とする。